2025年2月9日  川越教会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　丸山　勉

絶対に捨てない方

［マタイによる福音書10章16～23節］

「わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに羊を送り込むようなものだ。だから、蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい。人々を警戒しなさい。あなたがたは地方法院に引き渡され、会堂で鞭打たれるからである。また、わたしのために総督や王の前に引き出されて、彼らや異邦人に証しをすることになる。引き渡されたときは、何をどう言おうかと心配してはならない。そのときには、言うべきことは教えられる。実は、話すのはあなたがたではなく、あなたがたの中で語ってくださる、父の霊である。兄弟は兄弟を、父は子を死に追いやり、子は親に反抗して殺すだろう。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。一つの町で迫害されたときは、他の町へ逃げて行きなさい。はっきり言っておく。あなたがたがイスラエルの町を回り終わらないうちに、人の子は来る。

[1]　信仰は、弱い人がすることか？

　先週の礼拝の中でのメッセージをおぼえていらっしゃるでしょうか。先週は『み言葉をください』というタイトルでお話しさせて頂きました。マタイ福音書8章に出てきます、百人隊長の「ただ、ひと言おっしゃって下さい。そうすれば、わたしのしもべはいやされます」とイエス様に語った信仰から学ばされたことですけれども、私自身のこととしてお話しさせて頂いたのは、**「み言葉をもらったならば、とことんそのイエス様に信頼して生きよう」**ということです。

どうでしょう？一般的に、信仰に生きるというのは、弱い人間のすることだという捉え方があるかもしませんね。私自身も、聖書を知る前は、そう思っていたように思います。しかし、今はそう思いません。神様を信じて生きるとは、弱いことではないと思うのです。むしろ逆じゃないかと思っています。たとえ私一人であっても、安易に人に寄りかかって生きるということではなく、自立して生きるということを信仰は与えてくれると思います。もちろん、私たちはいたずらに孤独になる必要はなく、だれか身近な人達の優しやさや助けを受けながら生きて行って良い存在だと思います。しかし、本当に頼るべき方は、人間じゃない。私たちの心からの祈り・叫びを受け止め、聞いて下さる神様・イエス様です。

私たちは、最後は、神様と一対一で向き合うしかないのではないかと思います。そして、そのように私たちのことを心にかけていて下さるお方がいらっしゃる。私たちが最期、神様のふところにたどり着く時、たとえ私たちがボロボロの状態であったとしても、主はきっと**「おかえり、よくお前らしく良く歩んできたね」**と抱きとめて下さると信じます。あの放蕩息子を迎えた父親のように。

[2] 「蛇のように賢く、鳩のように素直に」とは

今日は、マタイ福音書の10章からです。ここで語られていることは、正直逃れたくなるようなことです。ここでイエス様は、信仰に生きる上での厳しい現実を語っています。イエス様は、信仰を持つことで自分の身に降りかかってくる理不尽なこと、特に迫害のことについても言及されます。誰も迫害に遭いたいなどと思いません。しかし、いつの時代でもこのことは起こり得ます。かつて「天皇と神とどちらを崇めるのか？」と問われた戦争中の時代がありましたが、その時公に、天皇より神様・イエス球を、と告白した者は投獄されたり、命を落としたりしたのです。これは昔の日本だけではありませんね。いつの時代でも、どこの国家でも、権力が神様にすり替わって行き、それにたて突く者は、治安維持の観点から反逆者として迫害を受けるのです。私たちが享受している「平和」というのは、一皮剥けば、薄い氷のような平和なのではないかと思います。

イエス様はそれを見抜いておられますから、神様を信じて遣わされて行く弟子たちに、「わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに羊を送り込むようなものだ」と言われました。厳しい現実を隠しません。更には迫害に遭った時のことも語ります。「あなたがたは地方法院に引き渡され、会堂で鞭打たれるからである。また、わたしのために総督や王の前に引き出されて、彼らや異邦人に証しをすることになる。引き渡されたときは、何をどう言おうかと心配してはならない。そのときには、言うべきことは教えられる。実は、話すのはあなたがたではなく、あなたがたの中で語ってくださる、父の霊である。」これは、迫害が襲ったとしても、大きな慰めですね。あなた方が引き渡されたとしても心配するなと。その時こそ、私たちが何によって生きているのかを自ずと証しする時になる。そして、聖霊（父なる神様の霊）があなたがたに語るべき言葉も授けて下さる、というのです。これは、イエス様のお約束ですから、それこそ百人隊長でありませんけれども、この言葉を握り締め、イエス様に固く信頼していくこと。それが私たちに許されていると思います。

イエス様はこれらの言葉を語る際、印象的な言葉を語られましたよね。10章16節。「…狼の群れに羊を送り込むようなものだ。だから、蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい。」　二つの生き物に倣えとイエス様は言われます。「鳩のように」というのはまだ分かる気が致します。よく「タカ派」・「ハト派」とか言いますけれども、ハト派は、争うよりも平和を好むというイメージがありますね。イエス様もここで「鳩のように素直であれ」と言われています。受け取りやすいです。

しかし「蛇のように賢くあれ」はどうでしょうか。「え？蛇ですか？」と言いたくなります。もともと蛇は創世記を見ると、初めの人間を誘惑した存在ですからね。でも確かに、「神が造られた野の生き物のうち、最も賢いのは蛇であった」と創世記3章に書かれています。確か口語訳では「狡猾であった」となっていました。狡猾と言うのは、ずる賢いということですから、イエス様、なぜ蛇のようになれとおっしゃったのか、ますますわからなくなります。

ただ、私は今回この所を読んでいてこう思いました。あぁ、イエス様は本当に私たちのことを気にかけて下さっているのだなぁと。主は、私たちがこの世にあって、弱い羊でしかないことをよくご存じです。羊は、ただふらふらと野原に出ていけば、すぐ狼の餌食になってしまいます。だからこそ「羊飼い」がいて下さるのです。それがイエス様です。そのイエス様に素直に従うこと（「鳩のように」）と、ボヤ―ッとしていないで、主に祈る中、霊的な眼差しを研ぎ澄まして頂いて、何が神様の御心であるのかを判別し、注意深く生きて行く賢さ、それが「蛇のように」ということではないのかなと思いました。

私たちの信仰の歩みのゴールは、御国の約束です。イエス様はそこまで必ず導いて下さいます。たとえ私たちが信仰に生きる故に迫害を受けたり、殺されたとしても、主が私たちを迎えて下さいます。しかし、だからと言って、いたずらに自分の命を粗末にしてはならないのです。イエス様は、私たちがこの世にあって、自立して行く抜く力を与えたいのだと思います。自分の気持ちに逆らう生き方、信仰を捨ててしまう生き方をすることを神様は望まれないでしょう。あなたがたは、この世にあって逞しく生きなさい！主を信じて、賢く生き抜きなさい！神様を信じ、生きることを諦めない力を私に与えて下さい！イエス様が共にいるということは、そういう力を与えて下さるということなのだと私は信じます。

[3] この方は、私たちを線引きしない

「蛇のように賢く、鳩のように素直に」。考えてみてください。このように生きられた方、生き抜かれた方は、誰よりもイエス様ご自身だと思います。イエス様は、サタンの巧妙な誘惑を見抜き、それをみ言葉をもって退けましたよね。また、あのゲツセマネの園でも、ご自分の思いとギリギリの格闘をしながら、ついに父なる神様のみ心に聞き入って、十字架の道を選んで下さいました。サタンの力を打ち砕く賢さと、最後は、御心に自分自身を預ける従順さと。これは、一体何のためだったのでしょうか？私たちのためです！私たちが一人も滅びないために、主は私たちに代わって戦って下さったのです！

私は、最近、あるクリスチャンの児童精神科医の証しを聞く機会がありました。

その方がこういうことをおっしゃっておられました。―今の時代、いわゆる発達障害と診断される子どもがとても多い。しかし、これは現代の人間関係の在り方や、教育体系の狭間でそのように診断されているということも多く、‟病気”ということではない。だから、学校でも一般のクラスがいいのか、或いは支援学級の方がその子にとっていいのか、どこかで線引きをすることがあるけれども、本当は線引きなど出来ないのではないかと思う。その意味では、教会での交わり、日曜学校の可能性と言うのは実はとても大きいと思う。「親」だけでなく、その「村の大人たち」が、自分たちのこと子どもとして一緒に関わっていく。昔はそうだった。今それが出来る場所は日曜学校だと思います―というようなことを仰っていました。…あぁ、そうなのだ、と思いました。教会の真ん中におられる方はイエス様です。このお方は、人間を線引きしません。あるがままの私たちを愛し、赦し、受け入れて下さっている方です。そうです。私たち自身、そうやって、教会の一員、神の国の一員とされた訳です。ただただ主に感謝です。絶対に私たちのことを見捨てない愛があるのです！私は、4月から週に一度、ある保育専門学校の中の礼拝メッセージ担当させて頂けるということなのですが、ああ、そういうことを若い人にお話ししたい、と思っています。

「蛇のように賢く、鳩のように素直に」。イエス様が、神様の力を受けてそのように生きられたように、私たちも、全ての人を線引きしない主の愛を頂きながら、この時代の中、また、私たちの隣人と一緒に、共に主に生かされて行くために遣わされて参りたいと思います。お祈り致しましょう。

主イエス様、あなたのご愛を感謝します。あなたは人を決して分け隔て致しません。この愛があるから、私たちは生きて行けます。励ましを受けて、自分らしく生きて行けます。そして、いつであっても厳しい時代です。楽なことはないと思います。しかし、主の霊・聖霊が私たちを後押しし、また人生が脅かされる時は、主が私たちを支えて下さいます。時には、逃れの道も用意して下さいます。その約束を信じ、これからも前を向いて生きることが出来ますように。お一人お一人の生きる道にあなたが伴っていて下さい。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。